

防災通信



第23回防災委員会定例役員会
●日時 平成29年6月10日(土) 18時00分～21時30分
●場所 3階集会所
●出席 第33期防災理事1名・行事理事2名・防災委員20名・アドバイザー1名

防災ファシリテーター育成講座を受講いたしました

- 日時:3月16日(木)13:00～17:30
- 主催:大和ライフネクスト株式会社
- 場所:新大阪丸ビル新館

受講内容のごくほんの一部となりますが、ご紹介させていただきます。



今まで正しいと思い込んでいた防災知識も、ひょっとすれば間違っていたかも知れません。下記の設問は全て間違った知識の一例です。どこが間違った行動なのかご家族みなさんと考えてみてください。

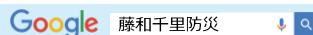
間違いだらけの防災知識(抜粋)

— マンション防災の知識をチェックしましょう。—

- Q1 お母さんが夕食の天ぷらを揚げている最中に緊急地震速報が鳴りだした。お母さんはコンロに駆け寄りガスを止めた。
- Q2 震災後、停電が続いていた。マンションの管理組合が非常食などを配給するというので家族全員でもらいに行った。帰ってみると電気が復旧し部屋の明かりがついていた。
- Q3 大きな揺れがきて断水してしまった。トイレを流すために風呂の残り湯で流した。
- Q4 大きな揺れの後、隣に住むおばあちゃんが気になり、ドアの前まで行ってみると内側からドアチェーンがかかったまま。声掛けしたが返事はなかった。警察や消防以外は勝手にドアを壊せないで、しばらく玄関前で様子を伺っていた。
- Q5 子どもの小学校のお友達(両親は電車通勤で共働き)が遊びに来ていた。帰る間際の夕方に大きな地震が来たので、お母さんはお友達を家まで送り届けた。
- Q6 就寝中、大きな揺れに見舞われ、物が落ちガチャンと何度も壊れる音がした。お母さんは無我夢中で、真っ暗なりびんを駆け抜け子どもの寝室に向かった。
- Q7 緊急地震速報は、すべての大きな地震の数十秒前に速報されるので、安全を確認してからガスの元栓を閉め、ブレーカーを落とす訓練をしておく。

※正しい行動は裏ページに解説しております。

この記事に関しての詳しい資料等は、管理事務所までお問い合わせください。または、パソコン、スマホから防災委員会のホームページをご参照ください。



前ページの解説

- Q1 解説 緊急地震速報が鳴った後、コンロの火を消しに行くとき鍋やフライパンが激しく揺れて熱い湯や油をかぶる事が考えられます。大火傷を負っても震災直後では電話も通じず、消防や病院も大混乱。今後避難生活を送っていく上で家族や周りに迷惑がかかる事にもなります。まずは、何よりも身の安全確保が第一です。
- Q2 解説 自宅を離れている間に通電していて、通電火災が発生する可能性があります。ブレーカーを落としてから行きましょう。
- Q3 解説 震災の備えとして、風呂の水は残しておくべきで、飲料水としては不適切でも洗濯などの中水として利用できます。しかし、マンションの場合、排水管などが破損していることがあり、漏水の原因になります。管理組合などの確認が必要です。
- Q4 解説 ドアチェーンがかかっている状況から在宅であり、かつ返事ができない状態と考えるのが自然です。家具などの下敷きになっていたら、一刻を争うケースです。手助けを呼ぶと同時に、バルコニー側のパーテーションを破るなどして、隣家の状況確認、または室内に入ることを試みる。
- Q5 解説 大変優しいお母さんのようですが、真っ暗で家中の物が飛び散らかった状態の部屋に小学生を一人残しておくこととなります。お母さん一人が友達の家まで行って預かっているなどのメモを貼り、友達を保護するのがより良い方法です。
- Q6 解説 家中ガラスや食器の破片、家具などが転倒している状況でケガや打撲を負ってしまう可能性が高い。このような時こそ落ち着いてスリッパを履き、明かりを確保して子ども部屋に向かいたい。枕元にはスリッパと懐中電灯を常備しておきます。
- Q7 解説 緊急地震速報は揺れを感知し、地震波よりも早く地震の到来を速報する仕組みです。震源が近い直下型地震の場合は、揺れを検知するとほぼ同時に地震が到来することになります。速報を聞いてからガスを閉めたり、ブレーカーを落とすのではなく、第一に身の安全を確保し、揺れがおさまってから行動します。